椎谷板金 NEWS vol.5

～上半期を振り返って～

専務　椎谷　亮

梅雨入り、梅雨明けの実感のないまま夏本番の強烈な暑さかと思えば、近年恒例となった災害級の大雨…まだまだ収まることのない新型コロナウイルス…外仕事を生業とする弊社にとっては、炎天下でもマスク着用を緩和し難い空気感のなか、いつも以上に過酷な夏を過ごしております。

8月3日、4日の下越地方北部を中心とした豪雨災害では弊社営業エリアでも多くの方が被災されました。

村上市、関川村をはじめとする被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

弊社社員も車両の冠水や自宅周辺道路の通行止めにより出勤できないといったことがありましたが、幸いにも救助や復旧を必要とする甚大な被害は無く、進行中の施工物件でも被害はありませんでした。発災後、ボランティアスタッフや水などの物資が必要であると聞きつけ、弊社でも何か力になれないかと備品在庫の経口補水液や水を被災地にお届けし、ボランティアとして現地で復旧作業のお手伝いをさせていただきました。

▲真夏の太陽が激しく照りつける屋根上での作業は過酷を極めます

被災された皆様が一日も早く元の暮らしに戻れますことをお祈りいたしますとともに、微力かもしれませんが、被災地のためにできることを少しずつでもしていきたいと考えております。

▲当社創設以来最大の75m長尺折版屋根カバー工事の様子

社内のことについても少しご紹介させていただきます。今年に入り、春から夏までに3名の新入社員を迎えることができました。また、ベトナム人技能実習生も新たに3名が9月に入社いたしました。過去を振り返ると、短期間にこれほど多くの入社があったことは無かったと記憶しております。

昨今、人材不足が深刻な建設業界ですが、このように入ってきてもらえる会社であることは素直に嬉しく思います。しかし、大切なのは入社してから。年齢も経験も様々な7人をどう迎え入れ、育成し自己を実現していってもらい、人員拡大を先輩社員にとっても会社にとっても成長につなげていけるか…こちらも、できることを少しずつ着実に積み上げていきたいと思います。

何かと騒がしく混沌とした世の中ではありますが、常に向上を目指すことを見失わず、ゆっくりであっても着実に、少しずつでも成長し、建築板金を通して地域の皆様に貢献してまいります。今年度下半期も安全作業に努め、新年度に向けて尽力いたしますので変わらぬご愛顧のほどよろしくお願いいたします。

板金折り紙「おひなさま」好評につき、秋に再開催いたします！

当教室の板金折り紙は、紙の折り紙をベースにしたものと完全オリジナルのものがあり、初期作品は紙の折り紙ベースです。とはいえ、紙と銅板は決して同じようには折れません。

銅板は硬くて厚みもあるので、紙のように折ったり広げたり、何層にも折り重ねたりが出来ないのです。なので、重なる部分を省略したり、厚みを考慮して角度を工夫しながら試作を繰り返し、板金らしい難易度とやりがいを残しつつ、楽しみながら時間内で作っていただけるよう当社独自の型紙を作っています。

干支の子は折り紙ベースの型紙、丑は折り紙＋オリジナルの型紙、寅に至っては完全オリジナルの型紙＋着色、と年々進化（？）してきました。

このおひなさまは子の年からの2年越しの新作で、小笠原雛という折り紙をベースにしていますが、折り紙にはない襟元の重ねや、より男雛・女雛らしくなるよう頭にもこだわりました。加えて寅の年まで引き摺ったおかげで着物に模様をつけることができ、板金教室の集大成的な仕上がりとなっています。

教室始まって以来の「1回の講習で2個同時製作」で開催しましたが、予想を超えたお申し込みを戴き、急遽追加開催することに。

参加者にも好評で、「とても素敵に仕上がって嬉しい」「自分で作ったなんて信じられない」「感動した」等々、嬉しいお言葉をたくさんいただきました。

今でも絶えないご要望にお応えし、9月末に再度おひなさま教室を開催。気になっていた方も多かったようで、予約は半月前にすでに定員に達しました♪

年末には来年の干支のウサギでご参加承ります。

▶寅には銅板よりも真鍮板の金色がふさわしいとは思っていましたが、真鍮板に濃い黒の縞模様をつけるのには苦労しました。様々に実験したおかげで、おひなさまの着物にも色や模様がつけられました

新潟県SDGs推進建設企業登録制度 第1回 登録企業のひとつに 2月

▲県から頂いたSDGs推進建設企業の登録証

昨今よく耳にする『ＳＤＧｓ』とは、社会が抱える問題を解決し、世界全体で２０３０年を目指して持続可能な未来を作るための17のゴールと１６９のターゲットで構成された、「持続可能な開発目標」のことです。

このＳＤＧｓは、私たち建設企業にも当てはまるもので、インフラ整備・災害復旧・除雪・耐震住宅の建築など、様々な面で住み続けられるまちづくりや、建設資材等のリサイクル、工事での水質・大気汚染防止などの環境対策にもかかわっています。

また、まちづくりや環境対策がＳＤＧｓの17のゴールとして掲げられているのですから、建設企業のＳＤＧｓへの取り組みは当然とも言えます。

「新潟県ＳＤＧｓ推進建設企業」とは、登録企業が自らの活動とＳＤＧｓのつながりを認識し、ＳＤＧｓの達成に向けた取組を率先して進め、人材確保・イメージ向上等に取り組むことを広く発信し、県として後押しすることを目的としています。

この取り組みを知った当社では昨年末に申請、令和4年2月14日付けで「第1回登録企業」として椎谷板金も登録いたしました！

最初はＳＤＧｓの意味すらわからず戸惑いもありましたが、当たり前のことを当たり前に認識し目標化して仕事や行動をしてゆくことなので、そんなに難しいことではないのかもしれません。なにせ「持続可能な開発目標」なのですから。

県からいただいた登録証をＨＰに掲載いたしておりますので、当社のＳＤＧｓ宣言も併せてご覧ください。

特別教育講習 自由研削砥石 2月・巻上げ機 4月・フルハーネス 5月 続々自社開催しております！

特別教育とは、特定の危険性を伴う業務を行う場合に必要となる専門的教育で、厚生労働省令の労働安全衛生法で定められた49の業務を行う場合、事業者が従業員に実施しなければならない教育のことです。

当社では、外部機関の特別教育を利用する場合もありますが、人数が多い時などは自社内で実施することが多くなりました。

自社開催の特別教育講習も回数を重ね、ベトナム人実習生のために通訳さんをお願いしたり、講習用に新しいテレビ兼モニターを購入したりと講習環境も少しずつ整ってきました。

普段は外仕事なので座学が苦手な印象の職方さんたちですが、安全対策のポイントを再確認し実務を行うことは自身の身を守るために不可欠ですから、講習中の表情は真剣そのものでした。

今年は他にも建築板金技能検定も控えており、忙しいは日々は続きます。

▶座学の後は工場に特設したローリングを使って実践講習を行いました

昨年に施工した櫛形ゴルフ倶楽部様の完成写真が㈱セキノ興産様のカレンダーに掲載！

昨年5月にクラブハウスの屋根大規模改修を行った胎内市の櫛形ゴルフ倶楽部様。その仕上がりが認められ、美しい曲線を描く屋根をとらえた上空写真が㈱セキノ興産様のカレンダーに掲載されました。

▲2022年12月に掲載されています

セキノさんは、弊社が日頃お世話になっている問屋さんで全国区の大企業です。

このセキノさんが一年お世話になった大切なお客様へ配るカレンダーは、全国の支店より推薦された中からさらに厳選された物件のみが掲載されるもので、部材の特性を踏まえつつ、卓越した技術と完成度を認められた24社の実力の証とも言えるものです。それゆえ、施工した側としてはもちろん、施主様にも喜ばれる大変嬉しいことなのです。当社がこのカレンダーに掲載されるのは7年前に続き2回目。振り返れば、それぞれ会社としての転換期を祝うようなタイミングでの掲載だったように思います。

▲エントランス上の曲線屋根が印象的な外観。施工がとても難しい屋根でもあります

これからも「お客様に喜ばれ認められる、誇れる仕事」を積み上げていきたいと、気持ちを新たにした出来事でした。

新しい制服（作業着）に加え 4月 熱射病対策のバッテリーファン付ベスト配布

毎年更新を続ける夏の最高気温。その炎天下の外仕事は想像を絶する暑さです。当社の現場は屋根、それもギラギラの金属の上での作業ですから、「体力勝負の仕事」だけでは片付けられず、会社としても社員の体を守るため対策をとらなければなりません。

昨年は救急セットとして、ちょっとした切り傷の手当てにカット綿や絆創膏と熱中症用に塩タブレットと経口補水液、瞬間冷却材等をバッグに入れて各作業車に搭載しましたが、今年は制服の配布に合わせて高速ファンにバッテリーをセットした空調ベストを作業員全員に配布しました。

一見フードの付きの普通のベストですが、外気を腰辺りからファンで取り入れ、ベスト全体やフードを被ったヘルメットの中にも空気を回して体の熱を下げるというもので、バッテリーや保冷剤を収納するポケットやフルハーネスの装着にも対応した優れモノです。

これを着て、水分補給はもちろん、塩分補給にも気をつけて猛暑を乗り切ってほしいです。

宴会は出来なかったけれど… 心づくしの折詰＆恵方巻を

当社の歓送迎会や季節の宴会は久しく開催できておりません。

社長は常々、いつも頑張ってくれている社員に慰労の意味を込めて美味しいご馳走やお酒を楽しんでほしいと考えているのですが、このコロナ禍の中ではどうしようもないこと。

工事でもご愛顧いただいている料理屋さんでの宴会は社員の楽しみでもありましたし、お客様への恩返しの意味もありましたので残念でなりません。

そこで思いついたのが「折詰」です。普段なかなか食べられない盛りだくさんの折詰を注文してくださいました。（お肉が大好きなベトナム人実習生には大盛りのフライドチキンです。）

豪華な晩酌に一人暮らしの方はもちろん大喜びでしたが、宴会でお父さん一人がご馳走を食べて酔っぱらって帰ってくる宴会より、家族と仲良く分け合えて食べることでよりお父さんの職場を意識してくれる機会になったのではないでしょうか。そして、節分には近年定番化している恵方巻も頂きました！

会社からのお土産を持って帰ってきてくれるお父さんもいいものですよね。

新しい仲間が増えました！ 前期は3人、今期もすでに4人が入社

前期の入社は昨年の7月に事務方に入社したT君、3月に入社した職方のI君とKさんの3人でした。

T君とI君は20代、Kさんは60代、3人とも異業種からの転職ですが、それぞれに前職等の経験を活かして戦力となる方ばかりです。

そして5月から新しい期となり、8月に40代のSさん、9月には新しいベトナム人実習生3人が仲間に加わり、当社が実習生の受け入れを始めて以来最大の9名となりました。

思いのほか順調に新入社員を迎えられている感がありますが実習生の数が示す通り、当社も世の常の如く若手の育成どころか「若い人がなかなか入ってこない」「続かない」という問題を常に抱えています。しかし、一週間の新人研修で真摯に学ぶ実習生を見ながら、「働くこととはなにか」「新しい人材が入ってきてくれる会社とはなにか」を考え、先を見つめ進化するのみ！と、気持ちを新たにいたしました。

技能実習生専用宿舎増築 新しい実習生の来日前に完成！ 6月

▲屋根や外壁はもちろん、施工はほとんど自社での工事。実習生もたくさん関わりました

当社にはベトナム人実習生が多い時で9人在籍しており、会社からほど近い宿舎から自転車で通勤しています。

この宿舎は一般的な平屋の一軒家なので大人数での生活にはトイレやお風呂が手狭で、食事の支度などの都合でキッチンにも不便があったようです。

4月いっぱいで2人が実習期間を終えて卒業しましたが、夏頃には新たに3人の実習生が加わるということもあり、思い切って宿舎増築の流れとなりました。

設計は㈱ワタナベさんにお願いし、自社施工。広めの居室にウォーキングクローゼット、キッチン、トイレにシャワー室を設け、玄関を新しく作り直して大きなシューズボックスも取り付けました。既存の平屋にもう一軒の平屋建てを連結したような造りではあるものの、宿舎ですから一般家庭とはかなり勝手が違います。

彼らはお米をよく食べるので炊飯ジャーが6個、スマホやタブレットなど充電の必要な機器をそれぞれ持っている上、夏には暑さ対策に必要なファン付ベスト用のバッテリーも充電しなければなりませんし、寒がりなので暖房機器もよく使います。そして、料理は辛くて手軽に作れる炒め物が多いようですので、お掃除が楽にできるような床や壁材を選びました。

慣れない日本での暮らしが3～5年も続く二十代の若者達です。集団生活が少しでも快適になるようサポートしていきたいです。

▲卒業したベトナム人実習生のV君との最後の記念写真

「ギャラリー＆コミュニティスペース・むくげ」にて SLT現地体感会を開催します!!

9月9日、新発田市上三光に農作業小屋をリノベーションした「ギャラリー＆コミュニティスペース・むくげ」がオープン。パッチワークキルト作家だった小柳恵子さんの作品を常設展示し、キルトの空間を楽しむミニコンサートなどのイベントや上三光集落の自然や地域資源を活用した農業体験とコミュニティ活動の拠点として活用されます。

工事を進める中、オーナーの小柳様はふと「窓がなくなる…」と気づいたそうです。展示する畳2枚分もあるキルト作品は大きくスペースが必要ですが、窓を塞ぎ展示数を増やすと室内は暗くなってしまいます。そこで、スカイライトチューブ（SLT）をギャラリーに設置することで、やわらかな布地の色合いを明るく照らし、作品を劣化させる紫外線を98%以上カットするというギャラリーにピッタリの機能を思い出し、ご注文を頂きました。完成したギャラリーは素朴な木の温もりに優しい太陽光があふれる、詩的なキルトの世界観にピッタリの空間になりました。

オーナー様のご厚意で素敵な作品とともに楽しむ「現地体感会」を度々開催させて頂けることになりました！ SLTの良さをまるごと体感いただけるまたとない機会に、今からわくわくしています♪

発　行／㈱椎谷板金工業 S.L.T事業部
〒959-2303 新発田市切梅618 TEL.0254-28-7183